

歴史をめぐる記憶の戦争と著述の倫理

——20世紀半ばの中国に関する「歴史の戦い」

唐 小兵（華東師範大学）

原文は中国語、翻訳：于 寧

20世紀半ばに中国で起こった革命と戦争は、当時及びその後の中国の歴史における方向性と社会の発展に甚大な影響をもたらし、エリートと庶民の日常生活と精神世界にも大きな影響を与えている。この歴史の1ページをめぐる記憶と著述は、歴史に関する記憶の分野において「神々の争い」を起こしたのである。1945年から1949年までの間の歴史と経験をいかに記憶・解釈・再構築するかは、現代中国人のアイデンティティと精神・生命における相違を引き起こすキーポイントとなっている。この問題に対して、歴史学界が正面から立ち向かうべく、歴史を遡って真相に迫ることや共通する認識を追求することなどを通じて、公共文化と歴史の記憶に貢献できるだろう。本論文は20世紀に中国で起こった戦争とその記憶に関する歴史著述、そしてこれらの著述が中国本土、香港、台湾で引き起こした大きな認識の相違と論争を対象に、歴史の記憶と真相、真相と和解、記憶と忘却、歴史と正義など、その複雑な関連性を考察する。

■唐 小兵（TANG, Xiaobing）

華東師範大学歴史学部教授。歴史学博士。博士課程指導教員。ハーバード・イェンチン研究所訪問学者。

専門は、清末から民国時代における新聞・雑誌の歴史、20世紀の中国知識人の歴史と思想文化史、左翼文化と中国革命、回想録・オーラルヒストリーと20世紀の中国における歴史の記憶など。『現代中国的公共輿論——以『大公報』『星期論文』和『申報』『自由談』為例』、『十字街頭的知识人』、『与民国遭遇』、『書架上的近代中国——一個人的閱讀史』、『北米学踪：從溫哥華到波士頓』などの著書を出版。論文は『China Information』や『新聞与伝播研究』、『史林』、『中共党史研究』、『二十一世紀』（香港）、『思想』（台湾）など国内外の雑誌に掲載。

華東師範大学第一回青年教師育人貢獻賞を受賞。2014年に『東方歴史評論』誌が主催の「中国傑出青年歴史学人」に入選（全国計15人）。

主な著作：「戦争、苦難与新聞——試論抗戰時期民間報刊的輿論動員」、『新聞与伝播研究』、2015年第8号。「民国时期中小知識青年的聚集与左翼化——以二十世紀二三十年代的上海為中心」、『中共党史研究』、2017年第11号。「後五四的家庭革命与社会改造思潮——以『中国青年』『生活週刊』『申報』為中心的討論」、『天津社会科学』、2022年第2号。